

丹波市
地域おこし
協力隊

地域おこし協力隊の活動を報告します

空き家を生かしたまちづくり
慎 淑恵さん vol.23

経歴：大阪府大阪市出身。大学卒業後、建設会社で住宅の設計に従事。木製イスの製作も経験。
任期：29年4月～



こんにちは、昨年4月から地域おこし協力隊で活動している慎淑恵です。空き家対策と移住促進のための制度「住まいるバンク」を担当しています。

住まいるバンクは、空き家を「売りたい・貸したい」人から物件情報を集め、空き家を「買いたい・借りたい」移住定住希望の人に情報を提供し、地域などとマッチングします。「借りたい」人が多いのに対して、「貸したい」人やすぐにでも貸し出せる空き家が少なく、もどかしく感じることもあります。

また、空き家を改修して交流施設などに活用する現場をお借りして、リノベーション体験のワークショップを開催しています。

体験を通して、ただその手法を学ぶだけでなく、自身を手掛けた部分が活用されているのを見届けることで、古民家や丹波の人・地域に愛着を持っていただければと思っています。



空き家リノベーション体験で測量する慎隊員（写真右）

祝100歳・88歳
おめでとうございます

市では、毎年最高齢者・100歳・88歳の節目を迎える皆さんに長寿祝金を贈呈しています。

今年の支給対象者は、100歳（20人）、88歳（543人）の計563人。9月17日には100歳を迎えた小牧ウメコさんら3人を市長・副市長が表敬訪問しました。働く事が大好きと語る小牧さんは、「長寿の秘訣は、自分のことはできる限り自分で行うこと」と話されました。



長寿祝いを受けた小牧ウメコさん（写真右）

作家・玉岡かおるさんが第1号！
ふるさと住民票を交付



丹波布の着物でふるさと住民票を受け取る玉岡さん（写真左）

9月21日、市を応援したい市外在住者とのつながりを深められるように新設した「ふるさと住民登録制度」で、加古川市在住の作家、玉岡かおるさんに第1号のふるさと住民票を交付しました。

玉岡さんは「丹波逍遥～そぞろ丹波市足まかせ～」を執筆するなど、市にゆかりのある人物。「このまちにはふるさとの原風景がある。ぜひ足を運んでふるさとを感じてほしい」と話しました。

緊密な連携で雇用対策の強化をめざす
兵庫労働局と雇用対策協定を締結

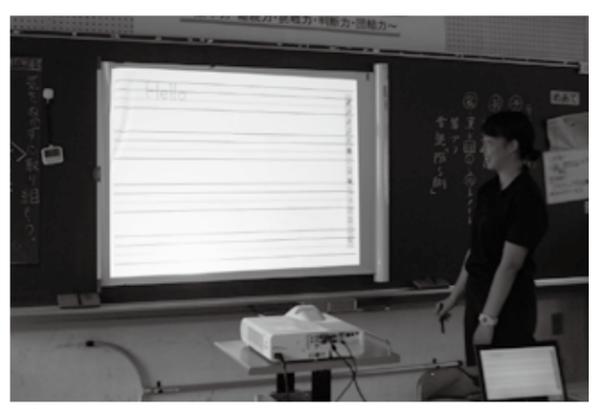
9月18日、市と厚生労働省兵庫労働局は、より緊密に連携して雇用対策に取り組むため、雇用対策協定を締結しました。新卒者・移住者・障がい者・高齢者・子育て世代の女性など、幅広い層に寄り添う雇用対策に一体的に取り組めます。

労働局の畑中啓良局長は「現在は丹波ワークサポートたんばの共同運営で市と連携をとっている。さらに緊密に連携していきたい」と話しました。



協定書を手にする畑中兵庫労働局長（写真左）と谷口市長

中兵庫信用金庫からの寄付金を活用
プロジェクター3台を導入



プロジェクターを使って授業研究をする教職員

4月に子どもたちの健全育成を願って中兵庫信用金庫から寄付された「なかしん若鮎募金」を使ってプロジェクター3台を購入し、9月上旬、市内の3小学校に導入しました。

このプロジェクターは、映し出した映像に電子ペンで文字や絵を書くことができるため、今後体育館などさまざまな場所で活用し、児童の思考力・表現力を高めることが期待されています。

市長コラム
丹波語り

器の大きい人物
になるために



小さなことで腹を立てやすい、四六時中イライラしている、忙しさを緊張でパニックに陥る・・・それではいくら優秀な人物でも、人望を集めることはできません。そんな器の小ささは、どうしたら改善できるのでしょうか。先輩から教わった対処法を6点紹介します。

- ①自分の姿を客観視するクセをつけること。周りからどう見られているかを想像すると「何とみつともない！」と冷静になれるはず。
- ②それでもイライラが収まらない時は、作業を停止して小休止して深呼吸する。
- ③「ゆっくり、はつきり」話すように意識する。そうすれば相手にもゆとりが伝染し、コミュニケーションがとりやすくなる。

- ④一度にアレコレやりすぎない事。シツカリ優先順位をつけて、後回しにできるものは、一旦頭から消してしまう。
- ⑤ワーキングメモリー（いわば長期記憶と短期記憶の中間。作業や動作に必要な情報を一時的に記憶）が容量オーバーになると判断や行動に誤りが生じる。
- ⑥「寝不足は大敵!!」ワーキングメモリーの活動領域を狭めてしまいます。

器の大きい人物になるため、私もこれらの点を意識して、今後の仕事に取り組みたいと思います。



丹波市長 谷口進一